

○ HOUTTUYN 氏博物誌ニ就テ (岡田要之助)

HOUTTUYN ノ名ハ日本植物學史ニ關心ヲ有ツ程ノ人々ニトツテ決シテ耳新シイモノデハアルマイト信ズル。タダ併シソノ人ノ事蹟ニ就テ我國デハ餘リ多ク傳ヘラレタ所ガナイヤウニ思ハレルノデ少シ許リ書イテ見タイト思フ。

徳川時代ノ初期中期ヲ通ジテ我國ニ於ケル植物學ノ様相ハ勿論現在ノモノトハ全く趣ヲ異ニシ、専ラ支那傳來ノ知識ヲ根幹トシテ、所謂本草學、物産學、名物學ノ範圍ニ於テ發展シ來ツタモノト考ヘラレル。然ル處此ノ期ノ終リニ近ヅイテ洋學ノ勃興スルト共ニ植物學ニ於テモ亦西歐ノモノヲ採入レル機運トナリ、之ヲ契機トシテ新天地ヲ開拓シタ結果ハ遂ニ明治時代ノ躍進期ヲ招來スルコトナツタ。偕テコノ轉換期ニ當ツテ第一線ニ活躍シタ人々ハ宇田川榕庵、伊藤圭介、飯沼慾齋等ノ諸先覺デアツタガ、就中植物分類學記載學方面ニ於ケル飯沼慾齋翁ノ業績ハ特筆ニ値スルモノト云フベク、ソノ著『草木圖説』¹⁾ハ我國ノ近代植物學界黎明期ヲ飾ル劃期的ノ著述トシテ永ク傳ヘラルベキモノデアラウ。

此ノ書ノ我が植物學史上ニ占ムル意義ニ就テ牧野富太郎先生ノ言ヲ借レバ²⁾

『慾齋飯沼翁ハ一代ノ偉人ナリ、其著草木圖説ハ一世ノ大著ナリ、翁ハ四面皆滔々タル本草流潮ノ時代ニ在テ、豫メ能ク時勢變遷ノ氣運ヲ察シ、疾クニ能ク草木記述ノ神髓ヲ解シ、卓然トシテ儕輩ニ抽キ、以テ此植物學ノ圖説ヲ著ハス、是レ我邦アリテ以來、始メテ我邦人ノ學術的ニ草木ヲ分類記載セルモノニシテ、其着眼ノ非凡ナル誰レカ之ヲ偉大ナラズト爲ンヤ、宜ナリ茲ニ五十年後ノ今日ニ至ルモ尙其著ノ實用ニ供セラレテ汎ク世ニ尊重セラルルコトヤ云云』。

而シテ此ノ名著ノ成ルニ當リ翁ノ參照セラレタ洋書若干ノ中ニ、特ニ多ク用キラレタノハ、本稿標題トシテ掲ゲタ所ノ HOUTTUYN 氏博物誌デアツタ。之ニ就キ再ビ牧野先生ノ言ヲ引ケバ³⁾、

『書中著者能ク林氏ト記セリ是レ和蘭國「ホツイン」氏(F. HOUTTUYN)ノ著書ニシテ固ヨリ林氏即チ「リンネ」氏即チ(KARL VON LINNÉ 即チ CARL. LINNAEUS). 自身ノ著書ニアラズ唯「ホツイン」氏ガ「リンネ」氏ノ學式ニ則テ以テ天物ヲ記述セルモノニシテ題シテ LINNAEUS Natuurlyke Historie ト云ヒ全部 34 卷⁴⁾アリ 西曆 1761 年(寶曆十一年)ヨリ同 1781 年(天明元年)⁵⁾ニ互リテ同國「アムステルダム」府ニテ出版シタルモノナリ而シテ書中又其第一種、第二種、等ト云フハ原書中其植物ヲ列記セル順次ノ號數ナリ著者即チ飯沼慾齋翁ハ主トシテ此書ヲ用キ以テ植物ノ洋名ヲ定メタリ而シテ其ノ之ヲ定メントスルヤ其屬(Genus)種(Species)ヲ搜索スルニ其間實ニ多數ノ時間ヲ費セシコト今ヨリ之ヲ想像スルニ餘リアリ 其僅ニ一行ニ記シ下シタル 只一個ノ羅名(ラテン名)及ビ蘭名(オランダ名)ヲ抽出センガ爲メニハ實ニ如何ニ長ク著者ヲ苦シメシカハ此ノ如キ事

1) 第一帙安政三年、第二、三帙文久元年、第四帙文久二年出版。

2) 増訂草木圖説、(明治 40 年、東京)序。

3) 増訂草木圖説卷末ノ言。

4) 37 卷ガ正シイト思ハレル。

5) MERRILL 氏ニ依レバ 1785 (即チ天明五年)。

業ニ経験アル人ノ直ニ首肯スル所ナリ況ヤ當時ニ在テハ其參考ニ資スベキノ圖書固ヨリ少ナク今時ノ如ク幾多利便ノ典籍之レ無キヲヤ今日ニ在テ翁ノ定メシ名稱ヲ閱スレバ則チ其名ノ其實ニ副ハザルモノ甚ダ多シト雖ドモ當時ニ在テハ何人ト雖ドモ蓋シ之レ以上ニ出ヅルコト能ハザリシナルベク頭腦非凡ニシテ精力絶倫ナル飯沼翁獨リ能ク之ヲ爲セシノミ固ヨリ竟ニ本草式ヲ脱スルコト能ハザリシ伊藤圭介氏等ノ企及シ能ハザリシコトハ同氏等ノ著書並ニ言行ニ徴シテ今ヨリ之ヲ追想スルニ難カラズ此ノ如キハ眞ニ諸易キ事歴ニシテ印痕彰々敢テ春秋ノ筆ヲ俟タズシテ明ナリ翁ノ齡既ニ知命ヲ過ギテ身老境ニ在リト雖ドモ奮テ能ク之ヲ遂グ其氣力ノ旺盛ナル壯者ト雖ドモ遠ク及バズ世ノ此書ヲ繕ク者翁ノ此勞ニ想到スルコト鮮シ故ニ特ニ之ヲ記シテ翁ノ努力セル一斑ヲ示スコト此ノ如シ』ト。

之ニ依テ見ルモ飯沼翁ガコノ劃期的ノ著述ヲ世ニ送ルニ就テ並々ナラヌ苦辛ヲ積マレタコトガ判ルガ、又其レガ HOUTTUYN 氏ノ著ニ負フ所ノ多イコトモ了解セラレデアラウ。

儲テコノ HOUTTUYN 氏ノ名トシテ從來引用セラレル所ニ M. トスルモノト F. トスルモノトニアリ、聊カ疑問ヲ抱イテキタノデアアルガ、一般ノ人名辭書ニハ一向ニ見當ラズ LEUNIS: Synopsis der Pflanzenkunde¹⁾, BAILLON: Dictionaire de Botanique²⁾ ノ如キ二三ノ植物關係書目デハ HOUTTUYN ノ名ヲ載セテハアルガ、纔ニ數行ノ記述ニ止リ、殆ドソノ如何ナル人ナルカヲ知ルニ苦シムノデアツタ。

然ルニ頃日圖ラズモ原寛氏カラ、近年 MERRILL 氏ガ何カ書イタモノガアル筈ナレバトテ懇々鈎出シテ示サレタ。即チ A Critical Consideration of HOUTTUYN's New Genera and New Species of Plants, 1773-1783. ト題スル一篇³⁾ニ就テ見ルニ上述ノ Natuurlyke Historieニ載セタ新種名新屬名ヲ検討セルモノデアアルガ、併セテ HOUTTUYN 氏ノ經歷及ビ著書ニ就テ稍詳密ナル解説ガ加ヘテアル。此ノ雜誌ハ我邦デハ諸所ニ備ヘテアルガ、サリトテ世間一般ニ廣ク流布シテキルモノデハナイカラ多數ノ讀者ニトツテ必シモ簡單ニ参照シ得ルモノデナイカトモ思フ。サスレバ茲ニ上記 MERRILL 氏其ノ他ノ記事ヲ參考トシテ略傳ヲ掲ゲルコトモ我が植物學史上ニ重要ナ一人物ノ傳ヲ便リトモナルコトデアラウカラ下ニ些カ紹介ノ筆ヲ執ルコトトスル。

HOUTTUYN 氏ノ名ハ MARTINUS ト呼ビ 1720 年オランダ國ホーレン (Hoorn)ニ出生、1798 年 4 月 27 日アムステルダム (Amsterdam)ニ歿シタ。日本流ニ數ヘテ七十九歳トナル。生涯ヲ通ジテ博物學ニ専心セシモノノ如ク、マタ小規模ノ博物館ノ如キモノヲ營ンデキタラシイ。或ハ標本商ノ如キ事業ニ携ハツテキタモノカトモ云ハレテキル。彼ノ THUNBERG ガ日本ニ來タ時ノ費用ナドモ HOUTTUYN ガソノ一部ヲ負擔シテ居ルナドト云フコトガアルラシイ。1749 年ニライデン大學ニ論文 (Spasmologia spasmodorum theoriam

1) 第 3 版第 3 卷 (1886) 附録。

2) 第 3 卷 (1891)。

3) Journ. Arnold Arboretum, 19 (4) : 291-375, 1938.

exhibens) ヲ提出シテ學位ヲ得テキルガ、ソノ後 1775 年ニハ ゼーランド藝術科學協會 (Zeeuwisch genootschap van kunsten en wetenschappen) ノ會員ニ選バレ、又オランダ科學協會 (Hollandsche maatschappij der wetenschappen) ノ會員トナツタ。博物學上カナリ多方面ニ互ツテ著述ヲ遺シテ居リ凡ソ 24 部 65 卷ニ上ルト云フ。ソノ書目ヲ列舉スルコトハ今省イテ置クガツノ中ニハ Houtkunde (1773) ノ如ク人口ニ膾炙セルモノモアリ、又 Beschrijving van eenige Japansche visschen en andere zeeschepselen. t. a. p., 1782, p. 311. ノ如ク我が邦産ノモノヲ論ジテキルモノモアル。前者ハ或ハ我が植物學ノ發達ニ寄與シテキルノデハアルマイカト謂ハレルガ未ダ定説ヲ缺ク如クデアル。¹⁾

彼ハソノ生涯ノ大部分ヲ アムステルダムニ過シタラシク、官職ニ就キシコトナク、又學位ハ持ツテキタケレドモ醫業ニ携ハツタコトモナイト考ヘラレル。ホルンノ市民ニ同姓 MAARTEN HOUTTUYN ト云フ醫家ガアツタ爲、時トシテ之ト混同シテ醫者ノ如ク傳ヘラレテキルコトガアルガ²⁾之ハ恐ラク誤デアラウ。

彼ノ名ハ THUNBERG 氏³⁾ニヨリ Houttuynia (Houtuynia) トシテどくだみ屬ニ用キラレ一般通行ノ名トシテ傳ヘラレテキル。

上ニモ述べタ如ク彼ハ多クノ著述ヲ世ニ遺シタガ就中浩辭ノモノハソノ博物誌デアル。全標題ハ Natuurlyke Historie of uitvoerige beschrijving der dieren, planten en mineraalen, volgens het samenstel von den Heer LINNAEUS, met naauwkeurige afbeeldingen. 即チ博物誌 (リンネ氏分類式ニヨル動植礦物詳解附精圖) ト云フ。

コノ書ハ三部ニ分タレ、第 1 編 動物界 18 冊 (1761~1773), 第 2 編 植物界 14 冊 (1773~1783), 第 3 編 礦物界 5 冊 (1780~1785), 總ベテ 37 冊ヨリ成ル。コノ中植物ノ部ハ間モ無ク別ニ Handleiding tot de plant- en kruidkunde benevens eene uitvoerige beschrijving der boomen, planten, heesters, kruiden, varens mossen, bol- en grasplanten, volgens het zamenstel van C. LINNAEUS. ノ新標題ノ下ニ 14 冊トシテ出版セラレタガ、ソノ内容ハ博物誌第 2 編植物ノ部ト全然同ジモノデアルト云フ。

飯沼慾齋翁ガ草木圖説ヲ著スニ當リ洋名ノ根據トシテ最モ屢用キラレタノ上ノ牧野先生ノ解説ニモ明ナル如ク、コノ博物誌ニ外ナラヌ。⁴⁾ 飯沼翁ガ之ヲ引用スル場合ニ『林氏(或ハ林那氏)曰ク……』トシテ HOUTTUYN ノ名ヲ擧ゲテ居ナイノハ原書ガ林氏分類式ヲ標榜シテキルニ基クト思ハレルガ、併シコノ書ハソノ大綱コソリンネ氏 Systema Naturae ニ依據シテ居レド實際ノ内容ヨリスレバ、全く獨立セル HOUTTUYN 氏自身ノ著作ト稱スベク、草木圖説ガソノ名ヲ逸シテキルノハ稍當ラヌ所ガアルノデハアルマイカ。

1) 澤田武太郎: HOUTTUYN, Houtkunde. (ホツタイン著木材學) 植物研究雜誌第 8 卷第 6 號 284 頁, 昭和 7 年。

2) ANDREAS VOSS: Botanische Hilfs- und Wörterbuch für Gärtner, Gartenfreunde und Pflanzenliebhaber. 7 Aufl. p. 244. Berlin, 1927.

3) C. P. THUNBERG: Flora Japonica, 1784.

4) 小野職認氏, 植學譯箋(明治七年)編述ニ際シテモ亦コノ書ヲ參考トシテキル。(牧野富太郎: 日本ヲ始メテ出來タ植物學術語ノ辭書, 植物研究雜誌 第 5 卷第 4 號 129 頁, 昭和 3 年)。

實ハ併シコノ原著ヲ見ルト M. HOUTTUYN ノ名ハ一寸判リ難イヤウナ鹽梅ニナツテキル。例ヘバ先ヅ第一編首卷ニ就テ云ヘバ肝腎ノ扉紙ニ著者名ヲ省イテキル(第1圖参照)。ソノ最下段ニ By F. HOUTTUYN ト記シテアルノガ稍紛ハシイガ、之ハ著者ノ父親ニ當ル FRANZ HOUTTUYN ト云フ人デ、アムステルダムニ於テ出版書肆ヲ業トシ、M. HOUTTUYN ノ著述ハ此處デ印刷出版セラレタモノガ多イト云フコトデアアル¹⁾。扉紙ノ次ニ一枚ヲ隔テテ N. STRUYCK 氏ニ對スル獻辭ガアルガ之亦實名ヲ現サズ、單ニ著者 (Auteur) ヨリト記シテアリ、續イテ序文 (Voorreden) ガアルガ、之ニハ全然署名ヲ缺イテキル。即チ首卷ノ全部ニ互ツテ徹頭徹尾著者ノ名ガ見當ラヌ譯デアアル。殘餘ノ卷モ扉紙ニ著者ノ名ヲ掲ゲヌコトハ全ク同ジ²⁾。但シ全編ヲ通ジテ絶対ニソノ名ヲ秘シテキル譯デモナク、MERRILL 氏ハ全 37 冊二萬一千五百餘頁ノ間ニ 6 個所 M. HOUTTUYN ノ名ヲ記シテアルコトヲ指摘シテキル。コノ中第2編(植物部)ニ關スル分ハ東大植物學教室所藏ノ書ニ就テ確メルヲ得タガ殘餘モ勿論 MERRILL 氏ノ述ベル所ニ相違ナイデアラウ。

飯沼翁ガ専ラ林氏ノ名ヲ探ツテ HOUTTUYN 氏ヲ用キナカツタノハ或ハコノヤウナ事情モ一部ノ由因ヲナスモノデハナイカト思ハレル。

序ナガラ Natuurlyke Historie ノ獨語版トシテ、CHRISTMANN, G. F. und PANZER, G. W. F. 兩氏著 Des Ritters CARL von LINNÉ Königlich Schwedischm Leibarztes & vollständiges Pflanzensystem nach der dreyzehnten lateinischen Ausgabe und nach Anleitung des holländischen HOUTTUYNischen Werks übersetzt und mit einer ausführlichen Erklärung ausgefertigt. ト稱スル書 14 卷 (1777~1788 Nürnberg) ガアル。コノ書ハ HOUTTUYN 氏 Natuurlyke Historie ニ據ル所ノ多イトハ勿論デアアルガ、單ナル翻譯トハ異ナリ、矢張獨立ト一書ト見做スベキモノデ、今ソノ内容ヲ精シク紹介スルニ及バナイガ、木村有香氏ガ之ヲ藏シテ居ラレルノデ、ソノ好意ニヨリ茲ニソノ扉紙及ビ見返シノ リンネ氏肖像 (第2圖) ヲ掲ゲテ參考ニ供スルコトトスル。



第1圖 Natuurlyke Historie 首卷扉紙

1) 但シコノ人ハ 1765 年ニ死亡シタモノト見エ Natuurlyke Historie 第 1 編第 9 卷 (1766) 以降ソノ繼承者ガ出版シタコトニナツテキル。

2) MERRILL 氏ニヨレバ HOUTTUYN ノ著書 24 部 65 卷ヲ通ジテ扉紙ニ著書名ヲ掲ゲタモノハ一モ無イト云フコトデアアル。

終リニ本稿ヲ草スルニ當リ、牧野先生ヲ初メ木村有香氏、清水藤太郎氏、原寛氏ヨリ種々有益ノ示教ヲ與ヘラレ又貴重ナ圖書ノ閱覽ヲ許サレタコトヲ附記シテ感謝ノ意ヲ表スル。



第2圖 Pflanzensystem.
右、首巻扉紙。左、同見返。

附記、此ノ他ニ『草木圖説』中屢引用セラレテキルモノニ、鐸氏、阿須氏、物印滿氏、印葉圖、西勃氏、春氏等ガアリ。牧野先生ハ之ヲ下ノ如クニ當テテ居ラレシ。¹⁾

鐸氏... REMBERTUS DODONOEUS: Cruydt-Boeck, 1618.

阿須氏... DIDER. LEON. OSKAMP: Afbeelding der Artseny-Gewassen, 1796-1800, Amsterdam.

物印滿氏... JOH. GUIL. WEINMANN: Phytanthoza Iconographica, 1737-1745.

印葉圖... JOHANN HIERONYMUS KNIPHOF: Botanica in originali seu Herbarium vivum etc. 1757-1764, Halle.

西勃氏... PHILIPP FRANZ VON SIEBOLD: 著書ノ何レニ當ルカ不明

春氏... CARL PETER THUNBERG: Flora Japonica, 1784, Leipzig.

上記ノ中第二ノ書ノ全標題ハ詳シク記セバ

1) 増訂草木圖説巻末ノ言。

Afbeeldingen der artseny-gewassen met derzelver Nederduitsche en Latynsche beschryvingen. 6 vol. 1796-1800.

アムステルダム、J. C. Sepp en Zoon 出版、着色圖入 6 卷本デ蘭羅對譯ノ記載アリ、D. L. ÖSKAMP 及ビ J. C. KRAUSS 兩氏 編纂、ソノ和蘭文解説ハ HOUTTUYN 氏 *Natuurlyke Historie* ヨリ採ルト謂フ。即チ草木圖説ノ生レルニ就テ HOUTTUYN 氏ノ學ハ此ノ書ヲ通ジテマタ關與スル所ガアリ、引イテ我が植物學ノ發展ニ影響ヲ及ボシテキルモノト考ヘラレル。

附記ノ貳。

上述 ÖSKAMP 氏ノ *Afbeeldingen der Artseny-Gewassen* ガ何時頃我邦ニ傳ヘラレタモノカ、今筆者ハ之ヲ審ニスル術ヲ持タナイガ、當時相當廣イ範圍ニ利用セラレタモノヲシク、ソノ圖ヲ模寫シタモノガ今猶各所ニ藏セラレテキル。ソノ内ニハ中々精巧ノモノガアリ、筆者ハ最近武田長兵衛氏ノ好意ニヨリ杏雨書屋ニ所藏ノモノヲ一覽スル機ヲ得タガ、ソノ一(同書屋藏書番號 No. 1116)ニ見ル圖ノ如キハ恐ラク原畫カラ透寫シニシタモノデアラウ、筆致ハ細密精緻ノ極メ着色モ亦頗ル忠實ニ原本ニ倣ツテ居ル。原書ト同ジク 6 卷ニ分タレ各卷 100 品種ヲ載セテ居ル。コノ書ハ裝訂モ折帖仕立ノ立派オモノ、保存モ頗ル良好デ美術品トシテモ見ルベキモノデアアル。『遊戯三昧院』ノ印記ニヨツテ調べタ所、岡田 溫氏ノ示教ニヨレバ、之ハ明治大正ノ頃日本橋富澤町吳服問屋ノ主人大久保紫香ト云フコトデ、コノ人ハ當時ノ所謂通人ノ一人、軟派ノ書物ノ蒐集デ知ラレテ居タト云フ。オスカンプ畫帖モ植物學關係ノ書籍トシテデハナク美術的價値ヲ認メテ收藏シテキタモノデアラウ。タゞ肝腎ノ筆者ヲ審ニスルヲ得ナイノハ残念デアアル。此ノ他ニ杏雨書屋ニハ同様ノモノデ昭和覆寫本モアリ、ソノ末尾ニ“安政五年戊午夏四月十日平安榕室山本錫夫題名”ノ記入ガ見ラレル。

別ニ京都大森文庫ニ江馬春齡筆『藥物本草』(七册)ト云フノガアル。右開キノ表紙ノ題簽ニハ『藥物本草』トアレド左開キノ表ニハ『D. L. ÖSKAMP』ト記シ、猶最終卷ノ表紙内側ニ「天保十二辛丑之冬」ト年記ガアル。之モ亦上述原書カラ寫シタモノデハナイカト思フガ、只之デハ圖ノ順序ガアルフテベツト順ニナツテ居ルカラ原書ト照合シテ見ナケレバ決定的ノコトハ云ヘナイ。若シ併シ推測通りノモ *Afbeeldingen der Artseny-gewassen* カラ模寫シタモノトスレバソノ輸入ハ少クトモ 1841 年以前、即チ原書完成(1800 年)以後幾何モナクシテ我邦ニ齎サレタコトガ想像シ得ル。

〇いぬひめしろびゆ (新稱) (久内清孝)

余ハ本誌 XVIII 卷 p. 600 デ、宇井縫藏氏ガ發見シテひめしろびゆト命名サレタモノヲ *Amaranthus graecizans* LIN. ト考定シテオイタ。然ルニ、本年 10 月横濱税關構内ニテ之ニ近似セル *A. blitoides* WATS. ノ存在ガ伊達健夫氏ニ證明サレタ。依テ之ヲいぬひめしろびゆト呼稱セントス。後者ハ前者ニ近キモ花序短ク、苞片ハ橢圓狀卵形デ漸尖頭、種子大キク、全株傾臥性著シク、下部ノ枝ハ殆ンド平臥シ頂部斜上ス。莖及ビ枝ハ一層強壯ニ